2027年３月期　第２四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年11月６日

上場会社名　　日本精鉱株式会社　　上場取引所　東
コード番号　　5729　　ＵＲＬ　https://www.nihonseiko.co.jp
代表者　　（役職名）代表取締役社長　　（氏名）植田　憲高
問合せ先責任者　（役職名）取締役企画管理部長　　（氏名）大西　芳太郎　　ＴＥＬ　03-3235-0021

半期報告書提出予定日　　2026年11月13日　　配当支払開始予定日　2026年12月２日
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無　　：無

（百万円未満切捨て）

１．2027年３月期第２四半期（中間期）の連結業績（2026年４月１日～2026年９月30日）

（１）連結経営成績（累計）

（%表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2027年３月期中間期	18,035	△13.5	1,085	△77.4	1,060	△77.7	722	△78.1
2026年３月期中間期	20,839	91.9	4,802	419.7	4,755	438.9	3,301	445.9

（注）包括利益　2027年３月期中間期　724百万円（△78.2%）　2026年３月期中間期　3,328百万円（448.4%）

	１株当たり中間純利益	潜在株式調整後１株当たり中間純利益
	円 銭	円 銭
2027年３月期中間期	73.64	―
2026年３月期中間期	337.15	―

（注）当社は、2026年４月１日付で普通株式１株につき４株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「１株当たり中間純利益」を算定しております。

（２）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2027年３月期中間期	22,588	15,630	69.2
2026年３月期	24,729	15,446	62.5

（参考）自己資本　2027年３月期中間期　15,630百万円　2026年３月期　15,446百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年３月期	―	170.00	―	230.00	400.00
2027年３月期	―	30.00			
2027年３月期（予想）			―	30.00	60.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：有
未定としていました2027年３月期の第２四半期末配当金を30円に決定しました。なお、期末配当と合わせた年間配当予想は変更しておりません。詳細は、2026年11月６日に公表いたしました「剰余金の配当（中間配当）及び配当予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。
当社は、2026年４月１日付で普通株式１株につき４株の割合で株式分割を行っております。2026年３月期については当該株式分割前の実際の配当金の額を記載しております。

３．2027年３月期の連結業績予想（2026年４月１日～2027年３月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	34,400	△15.8	1,710	△71.9	1,670	△72.3	1,120	△73.4	114.25

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※　注記事項

（１）当中間期における連結範囲の重要な変更：無
　　新規　ー社　（社名）、除外　ー社　（社名）

（２）中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
　①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　　：無
　②　①以外の会計方針の変更　　：無
　③　会計上の見積りの変更　　：無
　④　修正再表示　　：無

（４）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	2027年３月期中間期	10,423,600株	2026年３月期	10,423,600株
②　期末自己株式数	2027年３月期中間期	605,072株	2026年３月期	620,608株
③　期中平均株式数（中間期）	2027年３月期中間期	9,806,952株	2026年３月期中間期	9,793,801株

（注）　当社は、2026年４月１日付で普通株式１株につき４株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「期末発行済株式数」、「期末自己株式数」及び「期中平均株式数」を算定しております。

※　第２四半期(中間期)決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です。

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績の前提となる条件については、添付資料Ｐ．３「１．経営成績等の概況　（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」に記載のとおりです。

○添付資料の目次

１．経営成績等の概況 …… 2
（１）当中間期の経営成績の概況 …… 2
（２）当中間期の財政状態の概況 …… 3
（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 3
２．中間連結財務諸表及び主な注記 …… 4
（１）中間連結貸借対照表 …… 4
（２）中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書 …… 6
中間連結損益計算書 …… 6
中間連結包括利益計算書 …… 7
（３）中間連結財務諸表に関する注記事項 …… 8
（セグメント情報等の注記） …… 8
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 9
（継続企業の前提に関する注記） …… 9

１．経営成績等の概況

（１）当中間期の経営成績の概況

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善の動きなどにより、緩やかに回復の動きが続いています。一方、中東情勢の混乱による原油価格の高騰、円安の進行による国内物価の上昇が消費の下振れ懸念につながり、加えて金融資本市場の変動の影響、世界的な物価上昇の継続と地政学リスクの高まりなど依然として先行きは不透明な状況が続いております。

このような環境下、当社グループは、当社創立100周年となる2035年時点のありたい姿を想定し設定した長期ビジョンに基づき、2025年４月よりスタートした「第２の創生（創立100周年）に向けた基盤づくりのための挑戦と変革」をテーマとする３カ年の中期経営戦略において、「グループ連携の更なる強化」「既存事業の競争力強化とグローバル展開への挑戦」「最適な事業ポートフォリオの構築と新規事業の創出」「人的資本の充実とESGへの取り組み」という基本方針のもと、持続的成長と中長期的な企業価値向上に取り組んでおります。

これらの結果、当中間連結会計期間の売上高は前年同期比2,803百万円減収（13.5％減収）の18,035百万円、営業利益は同3,716百万円減益（77.4％減益）の1,085百万円、経常利益は同3,694百万円減益（77.7％減益）の1,060百万円、親会社株主に帰属する中間純利益は同2,579百万円減益（78.1％減益）の722百万円となりました。

セグメントごとの業況は次のとおりです。

［アンチモン事業］

同事業の原料であり、製品販売価格の基準ともなるアンチモン地金の国際相場は、主産地である中国において、アンチモン鉱石不足や2024年９月の輸出管理実施の公告、太陽光パネル向け需要拡大などにより一時最高値を更新したものの、中国国外でのアンチモン鉱石の採掘と製錬所の増加による地金供給が徐々に増えてきたことにより、2025年第２四半期以降は下落傾向となりました。2026年３月初旬には相場が輸出管理実施前の水準にまで下がり、需給改善で一時上昇しましたが、４月中旬以降は需要低迷で再び下落が続き、８月下旬に小幅に持ち直した後は、横ばいで推移しています。当中間連結会計期間の平均価格は、トン当たり約23,050ドルとなり、前年同期比約60％の下落、円建てでは同約57％の下落となりました。なお、第２四半期の平均価格は第１四半期の平均価格に比べ、ドル建て・円建てともに約24％の下落となっております。

同事業の主製品である三酸化アンチモンには様々な用途があります。主たる用途は、プラスチック材料の難燃剤です。プラスチックは、自動車、家電、産業機械、住宅などに用いられる電化製品の電気絶縁材料として広く用いられていますが、一般に燃えやすい性質を持っています。そのようなプラスチックにハロゲン系難燃剤と共に三酸化アンチモンを添加することで、高い難燃性を付与して電気機器の短絡や劣化による発火のリスクを減らし、火災による人的被害や経済的損失を防止することに大きく貢献しています。

同事業の販売状況につきましては、製造業全般の生産がおおむね好調に推移したことから、販売数量は前年同期比174トン増加（8.6％増加）の2,209トンとなりました。

その結果、同事業の当中間連結会計期間の売上高は、販売価格の下落から、前年同期比6,454百万円減収（40.5％減収）の9,482百万円となりました。セグメント利益は、在庫の影響等もあり、同4,224百万円減益（91.0％減益）の419百万円となりました。

［金属粉末事業］

同事業の主原料である銅の国内建値は、当中間連結会計期間平均でトン当たり約2,278千円となり、前年同期比55.9％の上昇となりました。

同事業の主製品は、電子部品の導電材料向け銅およびその他の金属粉末、パワーインダクタ向けの鉄系合金粉、自動車部品や産業機械部品などの粉末冶金製品向けの焼結材料としての金属粉末で、各種製品の高機能化や利便性に貢献しています。

また、DXの推進、IoTやAIの活用、５Gなどの高速通信技術の進展、産業用ロボットの普及、自動車のEV化やエレクトロニクス化、AIデータセンターへの巨大投資などを背景に、電子部品に対する需要は中長期的な拡大が期待されています。

電子部品向け金属粉末の販売状況につきましては、ハイエンドのスマートフォンやAIサーバー市場向けは堅調に推移しましたので、販売数量は前年同期比19トン増加（4.3％増加）の453トンとなりました。

粉末冶金向け金属粉末の販売状況につきましては、自動車部品や家電部品向けが好調であったことから、販売数量は前年同期比85トン増加（13.8％増加）の704トンとなりました。

全体の販売数量は前年同期比104トン増加（9.9％増加）の1,157トンとなりました。

その結果、同事業の当中間連結会計期間の売上高は、販売単価の上昇と販売数量の増加により、前年同期比3,652百万円増収（74.8％増収）の8,535百万円となりました。セグメント利益は、受注増加による操業度改善等から同516百万円増益（372.0％増益）の654百万円となりました。

［その他］

不動産賃貸事業等の当中間連結会計期間の売上高は17百万円、セグメント損失は０百万円となりました。

（２）当中間期の財政状態の概況

（資産）

当中間連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末比2,140百万円減少の22,588百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末比2,205百万円減少の16,119百万円となりました。これは主に仕掛品が293百万円増加したものの、現金及び預金が1,136百万円、商品及び製品が1,048百万円、受取手形及び売掛金が183百万円、原材料及び貯蔵品が140百万円減少したことによるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末比64百万円増加の6,469百万円となりました。これは主に有形固定資産が167百万円増加したことによるものであります。

（負債）

当中間連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度末比2,324百万円減少の6,958百万円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末比2,327百万円減少の5,029百万円となりました。これは主に電子記録債務が271百万円増加したものの、未払法人税等が1,027百万円、契約負債が445百万円、支払手形及び買掛金が404百万円減少したことによるものであります。

固定負債は前連結会計年度末比２百万円増加の1,928百万円となりました。これは主に長期借入金が34百万円増加したことによるものであります。

（純資産）

当中間連結会計期間末の純資産合計は、前連結会計年度末比183百万円増加の15,630百万円となりました。これは主に利益剰余金が親会社株主に帰属する中間純利益により722百万円増加したこと及び配当により563百万円減少したことによるものであります。

（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の連結業績予想につきましては、2026年５月12日に公表いたしました業績予想からの変更はございません。なお、業績予想の修正が必要と判断した時点で、速やかに開示いたします。

２．中間連結財務諸表及び主な注記

（１）中間連結貸借対照表

（単位：千円）

	前連結会計年度 （2026年３月31日）	当中間連結会計期間 （2026年９月30日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,682,480	5,546,257
受取手形及び売掛金	3,335,633	3,151,883
商品及び製品	4,361,893	3,313,702
仕掛品	846,683	1,140,630
原材料及び貯蔵品	2,619,056	2,478,575
その他	489,655	496,556
貸倒引当金	△10,441	△7,732
流動資産合計	18,324,961	16,119,873
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2,460,092	3,127,957
機械装置及び運搬具（純額）	876,663	846,858
土地	1,436,191	1,436,191
その他（純額）	899,715	428,676
有形固定資産合計	5,672,663	5,839,683
無形固定資産	117,393	97,979
投資その他の資産	614,688	531,400
固定資産合計	6,404,745	6,469,064
資産合計	24,729,706	22,588,937

（単位：千円）

	前連結会計年度 （2026年３月31日）	当中間連結会計期間 （2026年９月30日）
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,723,307	1,318,476
電子記録債務	433,549	704,872
短期借入金	1,242,656	1,164,648
未払法人税等	1,313,340	285,766
契約負債	1,275,810	830,128
賞与引当金	309,309	274,851
その他	1,059,401	451,040
流動負債合計	7,357,374	5,029,783
固定負債		
長期借入金	1,222,954	1,257,802
退職給付に係る負債	352,663	337,917
資産除去債務	38,832	38,897
その他	310,892	293,605
固定負債合計	1,925,341	1,928,222
負債合計	9,282,715	6,958,006
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,018,126	1,018,126
資本剰余金	597,130	616,658
利益剰余金	13,867,701	14,026,260
自己株式	△149,303	△145,647
株主資本合計	15,333,654	15,515,397
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	92,641	89,236
為替換算調整勘定	20,694	26,297
その他の包括利益累計額合計	113,335	115,533
純資産合計	15,446,990	15,630,931
負債純資産合計	24,729,706	22,588,937

（２）中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

（中間連結損益計算書）

（単位：千円）

	前中間連結会計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）
売上高	20,839,425	18,035,471
売上原価	15,307,339	16,191,655
売上総利益	5,532,085	1,843,816
販売費及び一般管理費	729,377	757,931
営業利益	4,802,707	1,085,885
営業外収益		
受取配当金	4,878	5,049
助成金収入	5,913	3,954
保険解約返戻金	7,201	1,337
その他	9,015	6,360
営業外収益合計	27,009	16,701
営業外費用		
支払利息	42,571	34,544
為替差損	24,707	1,725
休止鉱山費用	6,011	4,983
その他	925	760
営業外費用合計	74,217	42,015
経常利益	4,755,500	1,060,571
特別利益		
固定資産売却益	－	922
特別利益合計	－	922
特別損失		
固定資産除却損	1,841	6,733
特別損失合計	1,841	6,733
税金等調整前中間純利益	4,753,658	1,054,760
法人税、住民税及び事業税	1,461,279	261,890
法人税等調整額	△9,617	70,639
法人税等合計	1,451,661	332,529
中間純利益	3,301,996	722,231
親会社株主に帰属する中間純利益	3,301,996	722,231

（中間連結包括利益計算書）

（単位：千円）

	前中間連結会計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）
中間純利益	3,301,996	722,231
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	31,448	△3,404
為替換算調整勘定	△4,627	5,602
その他の包括利益合計	26,821	2,198
中間包括利益	3,328,818	724,429
（内訳）		
親会社株主に係る中間包括利益	3,328,818	724,429

（３）中間連結財務諸表に関する注記事項

（セグメント情報等の注記）

【セグメント情報】

Ⅰ　前中間連結会計期間（自2025年４月１日 至2025年９月30日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント			その他（注）１	合計	調整額（注）２	中間連結損益計算書計上額
	アンチモン事業	金属粉末事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	15,936,702	4,883,179	20,819,882	19,543	20,839,425	－	20,839,425
セグメント間の内部売上高又は振替高	－	28,268	28,268	809	29,078	△29,078	－
計	15,936,702	4,911,447	20,848,150	20,352	20,868,503	△29,078	20,839,425
セグメント利益	4,644,760	138,747	4,783,507	2,770	4,786,277	16,429	4,802,707

（注）１．上記の報告セグメントに含めていない、不動産賃貸事業等であります。

２．セグメント利益の調整額16,429千円はセグメント間取引の消去16,429千円であります。

Ⅱ　当中間連結会計期間（自2026年４月１日 至2026年９月30日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント			その他（注）１	合計	調整額（注）２	中間連結損益計算書計上額
	アンチモン事業	金属粉末事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	9,482,640	8,535,223	18,017,863	17,608	18,035,471	－	18,035,471
セグメント間の内部売上高又は振替高	－	54,933	54,933	914	55,847	△55,847	－
計	9,482,640	8,590,156	18,072,796	18,522	18,091,319	△55,847	18,035,471
セグメント利益又は損失（△）	419,966	654,876	1,074,842	△462	1,074,379	11,505	1,085,885

（注）１．上記の報告セグメントに含めていない、不動産賃貸事業等であります。

２．セグメント利益の調整額11,505千円はセグメント間取引の消去11,505千円であります。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）
該当事項はありません。

（継続企業の前提に関する注記）
該当事項はありません。